

# ワクワク通信

私たちは、エネルギーと生活関連事業を通じて  
地域の顧客満足 No.1 企業を目指しています。

いばせき広報室

茨石商事株式会社

〒315-0013

茨城県石岡市府中 2-3-19

TEL 0299-24-2680

FAX 0299-23-8056

ホームページ <http://www.ibaseki.com>

E-mail [ibaseki@arion.ocn.ne.jp](mailto:ibaseki@arion.ocn.ne.jp)

社長エッセイ

## 「今が旬！太陽光ソクソク」

だいぶ日差しも強くなって初夏の香りがぶんぶんする季節になって参りました。以前にも紹介した太陽光発電の全量買取物件（10kW以上）も生産が遅れていたパネルが入荷し4月の末までに大方が設置完了しております。今回はその事例紹介共々紙面でご案内いたします。



### 事例 2

野立て物件です。約 21kW。工事期間は基礎工事含めて延べ5日です。



### 事例 1

幼稚園です。約 27kWを乗せました。工事期間は2日で完了です。



### 事例 5

同じくアパートです。ここは1棟南向き面で約 11kWを設置しました。



### 事例 4

アパートです。2棟の南向き設置を空中で電線を渡し約 11kWにしています。工事期間は2日です。



### 事例 3

家屋と野立ての複合です。約 15kWで工事期間は3日です。

紹介したのはごく一部で、皆さん売電による収入を楽しみにしております。  
（42円20年全量固定買取の方々です。）



なかなか手に入れることができないようになってきたので、そのため檜風呂の生産は、年々減少しているそうです。

「介護老人保健施設 ゆうゆう」  
樹齢300年の檜風呂？  
先月檜風呂の設置工事が完了した、石岡市医師会が経営する「介護老人保健施設 ゆうゆう」。以前から檜風呂が設置

## リフォーム紹介

実は当社も売電を始めてから3ヶ月目に入りますが、月平均約5.8万の平均予想売電量に対し3月分7.4万、4月分9.2万と予想を上回る収入を得ております。  
売電単価が38円に下がった今も現地調査の依頼は数多く来ております。特に最近は大規模化しており、皆さん50kWギリギリの案件が主流をしめております。現在の単価でも十分採算が得られますので、広い屋根（倉庫や物置とかでもOK）や使っていない土地等有りましたら気軽に声を掛けて下さい。勿論無料で調査に伺います。

されていたのですが、檜の浴槽を新しいものと交換し、壁面の張替や仕切りの設置、浴室用床の導入など檜風呂を活かした空間になるようリフォームを行いました。  
檜風呂は、栃木県の日光市の近く塩谷町の職人さんにお願いで作って頂きました。檜風呂のサイズはかなり大きな浴槽で、浴槽は継ぎ目もわからなく、匠の業と感心してしまいます。さらに驚かされるのは、檜の浴槽に使える檜の木は樹齢300年程度の木でないと使えないとのこと。檜は時間がたつと油分が多くなり、材質が締まってくるそうです。その感触は通常使われている檜よりも堅く檜の優しい匂いがより強い気がします。しかし、近年は樹齢300年を過ぎる国内産の檜は市場に出回っていないそうで、なかなか手に入れることができないようになってきたので、そのため檜風呂の生産は、年々減少しているそうです。





写真の金槌、もう一つのノミの様な道具は、「楢肌（まきはだ）」という板と板のすき間に水もれ防止に楡の皮で作るやわらかい縄を入れる為の道具です。これらの道具は、楢風呂の職人さんが17歳の頃、楢風呂職人を目指して働き始めた頃、当時の親方に「楢風呂で食べていくことができる」と素質を見込まれてプレゼントされたものだそうです。50年以上たった今も現役です。

楢風呂は思ったよりもリーズナブルで、日本の伝統を感じる事ができます。みなさんも職人の仕事を体験してみたいかがでしよつか？

### イベントレポート

#### 第4回茨石ゴルフコンペ開催

先月5月14日に4回目となる茨石商事主催のゴルフコンペが行われました。天気にも恵まれ快晴の真夏日の中、絶好のゴルフ日和となりました。

緑が多いゴルフ場の新緑の中、春の息吹を感じながら、参加者の方々も普段の忙しい日々を忘れゴルフを楽しんでいました。

ちなみに、今回の優勝賞品のエアコンを手にしたのは、信戸昌宏さんでした。しかも信戸さんは茨石ゴルフコンペ、なんと2回目の優勝です。

#### ●上位入賞者成績●

- 優勝 信戸 昌宏 様
- 準優勝 小久保 幸雄 様
- 3位 十文字 権治 様
- 4位 浜 誠次郎 様
- 5位 鈴木 久彌 様

上位入賞者の方々おめでとうございました！

また、満足のいく結果が残せなかった方々、都合が悪く参加できなかった方々もいらつやうと思ひますが、今後も開催していく予定ですので、今後ともよろしくお願い致します。



### ふるさと紀行

#### 幻の酒米で造った

#### 名酒「渡舟」の秘話

私たちの住む石岡は、国府が置かれたところで、古くから醸造のまちでした。特に酒造りの蔵元は多く、昭和はじめには十数軒を数えました。現在では合併などで四つの酒造会社と酒造りをしてますが、その中でただ一つ江戸時代からの蔵で旧来の酒造りをしている酒造会社があります。

府中誉樹がそれで、代表の山内孝明さんは20代半ばから酒造りに取り組んできました。早稲田大学卒業後に家業を継ぎ、そのときから地元の酒米で酒が作れないかと模索をしていました。酒米の主流は山田錦ですが、種苗法の壁があり、簡単に地元でそれを栽培することができません。さんざん悩み模索した末に「渡船」という品種に出会いました。これは、山田錦の親にあたる酒米で、つくば市の研究機関に保存されていました。



歴史ある佇まいの府中誉の店舗

山内さんはこれを譲り受けて、一握りの種籾から酒米「渡船」を復活させようとなりました。しかし困難はさらに続きます。渡船は明治期の品種で、倒れやすくモミが落ちやすく、栽培には難しさがつきまといました。適地は山裾の谷津田で、清涼な水が流れる場所を探すことから始まりました。適した場所を選び続け、行き着いたのが八郷の山裾の田んぼでした。そこで改良を重ねながら、米作りがはじまりました。このような試行錯誤は数年も続き、やっと「渡舟」が誕生したのでした。以来四半世紀が過ぎ、最高級品の純米大吟醸「渡舟」は、大好評の地酒として定着し全国の日本酒愛好家の根強い支持を受けています。近年では、アメリカや香港など海外でも評判が高く、石岡の高級ブランドとして名声が定着しています。これからの季節、冷えた渡舟を飲んで、誕生までの苦節が醸し出すその芳醇さを味わってみてはいかがでしょう。

#### ●編集後記●

知りたいことや載せてほしいことがあつたら、何でもお気軽に頂けましたらお答えいたします。また、感想やご意見なども頂けたら嬉しいです。お待ちしております。何かありましたら是非宜しくお願いいたします！

